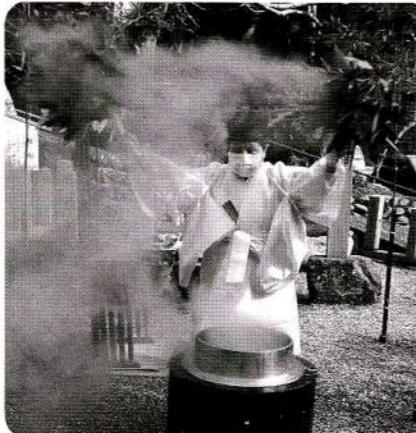


尚、緊急事態宣言が夏には四度目が発令されました。昨今は感染者が減少傾向にはあります、まだまだ予断を許さない状況が続いております。全国

日本は五十一年のメダルを獲得、選手の皆さんは今日まで目標に向かって頑張ってこられたお姿に、私達は勇気と感動を与えられ、それぞれ違う道であつても努力すれば、何事も達成出来る事を教えて下さいました。今、指針を失った暗い世の中で、心に灯をともして下さいました。



湯立神事（2月3日）



茅の輪（6月・12月）

毎月の月次祭は、1日、17日、26日（月生誕祭）、27日、29日に行っています。

毎月1日、17日の祭儀斎行前には、参列者一同、日本国と世界の平和、御皇室の弥栄をお祈りしております。

27日、29日は神職のみの奉仕となります。

伊賀東照宮宗教会報

ご挨拶

宮司 稲葉 喜代子



ご崇敬者の皆様には、いよいよ御清栄の御事とお慶び申し上げます。皆様には常日頃ご高配を頂いておりますことに、御礼申し上げます。

さて、昨年初春の頃より今日迄も新型コロナウイルス感染症・変異ウイルスも猛威を振るい、ワクチン接種も進んでいますが、社会生活に大きな混乱と経済に打撃を与えて、感染者が日々増加現況下の中、世界中が注目の人々の皆さんは今日まで目標に向かって頑張ってこられたお姿に、私達は勇気と感動を与えられ、それぞれ違う道であつても努力すれば、何事も達成出来る事を教えて下さいました。今、指針を失った暗い世の中で、心に灯をともして下さいました。

第3号

発行所
伊賀東照宮社務所
三重県伊賀市老川1103-2
TEL 0595-55-2512

疫病鎮静への祈り

各神社に於いては、昨年に引き続き、おまつりの縮小簡素化、参拝者の減少に伴い、大変厳しいものがあります。

日々、新型コロナウイルス終息に向けて、お祈りを続けておりますが、ウイルスは変異を繰り返し、猛威を振るう

状態となり。しかし乍ら、永い日本の歴史を振り返ると、人と疫病との関わりは、今以上に身近な問題であったと想像ができます。先人達は、疫病の鎮静の祈りを、様々なおまつりを通して、今までに伝えていきます。今こそ私達は、日々祈りを捧げて、皆が心一つに合わせ、この困難を乗り越える様に、当宮も更に祈りを捧げて参りたいと存じます。何卒、皆様にはきっと穏やかな元の生活に戻れ、世界中が笑顔で仲良く暮らせる日が来ると信じております。

当宮では、今年も新型コロナウイルス感染拡大・変異ウイルス株の一日も早い終息と、元の暮らしを願い、日本・世界平和、皇室の弥栄を祈り、左記の祭儀を斎行しました。

一、節分祭（二月三日）
鬼やらい（疫神・災神）
湯立神事（厄除・疫神祓い）

2月3日 節分祭 湯立神事
厄除祈願祭 二月中

2月17日 祀年祭

4月17日 春季例大祭

6月17日 水無月（夏越の大祓祭）

6月30日 崇敬者の大祓祭

7月7日 夏越の大祓祭 神職のみ

7月29日 天命祭

8月7日 創始者月次祭

6月30日 七夕ききょう夏まつり

7月7日 夏越の大祓祭 神職のみ

7月29日 崇敬者の大祓祭

8月7日 崇敬者の大祓祭

8月29日 崇敬者の大祓祭

9月7日 崇敬者の大祓祭

9月29日 崇敬者の大祓祭

10月7日 崇敬者の大祓祭

10月29日 崇敬者の大祓祭

11月7日 崇敬者の大祓祭

11月29日 崇敬者の大祓祭

12月7日 崇敬者の大祓祭

12月29日 崇敬者の大祓祭

1月7日 崇敬者の大祓祭

1月29日 崇敬者の大祓祭

2月7日 崇敬者の大祓祭

2月29日 崇敬者の大祓祭

伊賀東照宮 年中行事

1月1日 歳旦祭

新年祈祷 一月中

7月7日 山の神祭

小豆粥祭 古札焼納祭

1月15日

1月31日

2月3日

2月17日

4月17日

6月17日

7月7日

8月7日

9月7日

10月7日

11月7日

12月7日

1月7日

2月7日

3月7日

4月7日

5月7日

6月7日

7月7日

8月7日

9月7日

10月7日

11月7日

12月7日

1月7日

2月7日

3月7日

4月7日

5月7日

6月7日

7月7日

8月7日

9月7日

10月7日

11月7日

12月7日

1月7日

2月7日

3月7日

4月7日

5月7日

6月7日

7月7日

8月7日

9月7日

10月7日

11月7日

12月7日

1月7日

2月7日

3月7日

4月7日

5月7日

6月7日

7月7日

8月7日

9月7日

10月7日

11月7日

12月7日

1月7日

2月7日

3月7日

4月7日

5月7日

6月7日

7月7日

8月7日

9月7日

10月7日

11月7日

12月7日

1月7日

2月7日

3月7日

4月7日

5月7日

6月7日

7月7日

8月7日

9月7日

10月7日

11月7日

12月7日

1月7日

2月7日

3月7日

4月7日

5月7日

6月7日

7月7日

8月7日

9月7日

10月7日

11月7日

12月7日

1月7日

2月7日

3月7日

4月7日

5月7日

6月7日

7月7日

8月7日

9月7日

10月7日

11月7日

12月7日

1月7日

2月7日

3月7日

4月7日

5月7日

6月7日

来る令和四年の寅の年(壬寅)にちなんで

徳川家康公

今日は余り知られていない徳川家康公の意外な一面を、ご紹介します。

来る令和四年の幕開けは、寅の年で今川義元の人質となり少年期を過ごす。(両親於大方、松平広忠)徳川家康公は、常々天下統一を念願として、戦国の乱世の時代を駆け抜け、そして数多くの武将の中、戦国時代に終止符を打ち、天下太平の世を目指して、理想の国造りに、その生涯を捧げた偉大なるお方である。

家康公の国政の基本理念は、国民一人ひとりの命を大切にして、教育の充実を図り、対外的には、平和外交を発展させるというものであった。だからこそ、世界平和の神様としての当宮御祭神である。

東照公御遺訓

人の一生は重荷と肩負て遠き道をゆくが如し いざゞべからず
不自由を嘗とおもへば不足なし
こうる望むらば因窮するる
時を思ひ出すべし 懇忍は急事
長久の基 いかには敵とみし人
勝事ばかり知てまくる事とへら
されば害其身にいたる おそれ
を育て人をさむるな 及ぼる
は遇たるよりあらわ

【徳川家康公と
ウイリアム
アダムスとの
出逢い】

全ての事実が浮び上がつ

三浦とは、(相模国三浦郡逸見村(横須賀市)から名付けられた。接針(あんじん)とは、パイロット、水先案内人の意味。

【参考資料】ちくま新書
日本大百科全書(ニッポン大百科全書) ポニカ
ヤフーニュース

てくる。家康は、日本の門戸を開いて、積極的な誘致活動まで行った。

徳川家康と、ウイリアムアダムスの出逢に依って、国际人家康の見事な

外交手腕展開に、外交顧問としてのアダムスの活躍が出発点となる。徳川家康公の先見の明が顕れたのであつた。

ウイリアムアダムスは、イングランド生まれ(一五六四年九月二十一日生)一六二〇)航海の途中で、

日本の豊後(大分県)の白杵に近い佐志生に漂着大坂に送られ、徳川家康と会見する。

その後、アダムスの才能をかつて外交顧問の通訳とし、配下に置き、

日本名三浦安針の名前を与え、二百五十石の旗本にとり立てられ、江戸日本橋に邸宅を与えられた。家康の外交顧問を務めると共に、船大工から、海軍、船長を経て、日本で航海術や、数学、幾何学、地理学、西洋諸学を教えた。

創始者の御教

一、信じる

「肯定する」ということ
「受け入れる」ということによつて、私達には無限の力が与えられるようになるのです。

二、悟りを開く

全てによい方に解釈する
ゆるす心を養うこと

一、感謝する
天地・大自然・祖先、多くの人たちによって生がされ、生きていること。
明日への欲を願うよりも、今日一日の感謝の心をもつこと。



神様に生かされて

(伊賀東照宮) 敬神婦人会会計

山本ふみ子

野山の木々もだんだん色づき始め深まる秋を感じる季節となりました。私は昨年四月より何もわからないままに敬神婦人会の会計を受けさせて頂きましたが令和二年より今年も新型コロナの感染拡大によりさまざまな事が自粛及び中止となりいろんな所に影響を及ぼしている為思う様に動けないのが現状です。

このコロナ流行の原因は地球の使い方の誤りをお知らせくださっているのと地球資源を多く使いさらに地球温暖化の様な環境の変化を生じさせて地球を大きく傷つけてきた事。だから自然の声に耳を傾けて地球資源を大切に使う事、そして自然の中で生かされている生き物達との共生を目指しすべての自然の恵みに感謝する事を忘れてはいけないと思います。宮司様に頂いたあまびえ様のお守りを外出時にはいつも身に付けさせて頂いておりまますので安心しています。

さて我が家の中の信仰の始まりは、主人が本宅（現在はお宮の社宅）を建てさせて頂いた時から祖母が近所の人を4人ほどお誘いして参拝させて頂いて以来今に致っております。

私の実家は天理教なのですが祖母が信心深い人だったので許してもらいました。そして私が嫁いでから一緒に参拝させて頂いて来ました。



天命祭（延喜音踊）

東照宮の教えは天理教にも共通する所が多くてわかりやすく、抵抗なく、すんなりと心に納めさせて頂けるのです。この48年の長い年月いろんな

事がありすぎるほどありました。が特に主人は無何回も手術、入院、事故に遭っていますが、神様の不思議なお力によつて助けて頂いて来ました。世の中の為に役に立ち働かせてもらえるんやなあと悟らせていただいております。

親神様（創始者、私達はご存命の頃よりそのようにお呼びしていまして。）がよく言われておられました言葉に、「お供えは将来の預金だと思ひなされ、そして信仰はただでないと言う事を常に心に止めおくのやで」と言われた事を思い出させて頂いております。そしてこの事を少しずつ実感させて頂いています。

これからも神様に生かされていることを忘れずにコロナの終息が少しでも早く收まり、お宮が今までの様に賑わう事を願つております。

伊賀東照宮 略記

● 昭和四十九年四月十七日

春季例大祭斎行に当たり前年より社宅（現）より五百m東への土地を授かり、整地を始める。三尺四方の祠を建立。日光東照宮より持使をお迎えして、聖地に於いて初めての大祭を盛大に斎行。

※社宅とは、昭和四十四年秋頃より創始者坂野つなへ嫗命が数多の人々に教義を広められた処。

本年は八年ぶりに「仲秋の名月」と「満月」が一致の十五夜となり

（21日午後九時頃）、前日の夜は満月に近い素晴らしい月が見られ、有難く両手を合わせました。

しかし、21日夜はあいにく雨天となり、前夜のような月は見られませんでしたが、午後六時より

「十五夜祭」を斎行いたしました。

「十五夜祭」



● 昭和五十一年九月八日

数多の崇敬者の尊いご淨財により新神殿建設工事着工。

● 昭和五十一年十月 上棟祭

● 昭和五十二年四月十六日

新神殿竣工と共に創始者が日光東照宮に嘆願され実現。日光東照宮殿より御分靈鎮座祭を浄暗の中、社宅（現）より新神殿への渡御祭が日光より現宮司 稲葉久雄氏、他一名のご奉仕を賜った。

● 昭和五十二年四月十七日

明けて春季例大祭並御分靈鎮座祭・奉祝祭が盛大に斎行。

新神殿建設・御分靈鎮座祭に日光東照宮を初め老川区民の皆様、数多の御崇敬者の各位の真心に衷心より感謝と御札を申し上げます。有難うございました。

● 平成九年四月十七日まで

昭和四十九年より四十七年間、日光東照宮より毎年持使の派遣を賜つたが、新神殿建設竣工後、平成十年十月単立、宗教法人から神社本庁被包摺関係認定認証となり、本庁献幣使ご奉仕となる。

● 令和三年 今年で神社本庁包摺関係認定より二十三年を迎える。

当宮では新型コロナウイルス
感染症予防対策を実施しています
皆様が安心してご参拝いただけますよう次の通り感染症
対策を致しております。

一、マスク着用

一、手水杓の撤去

一、体温測定・手指の消毒剤

一、拝殿着座位置

二メートル間隔実施

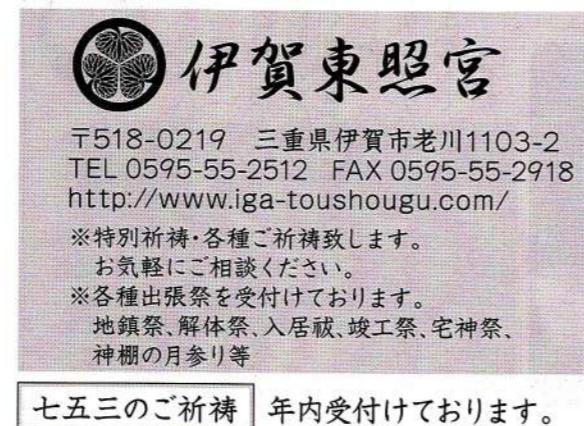
一、全ての建物ドアノブ・
部品等々除菌

ご来宮の皆様
新型コロナウイルス
感染拡大防止の為
マスク着用にて
お願いいたします
伊勢神宮

御退任（敬称略）
令和三年七月七日
天命祭にて感謝状授与
奉贊会副会長 滝川芳治
津支部特別崇敬者
森田 實
森 成昭
崇敬者各位には多年に
亘り、祭儀準備・清掃作
業にご奉仕をいただき、
心より感謝を申し上げま
す。

新御代は令和元年五月一日となり、令和二年の初春より新型コロナウイルス感染が日本・世界各地にまたたく間に拡がり、今は変異ウイルスも発生し猛威を振るい、当宮では新御代より今年で二回目の春季例大祭が、感染予防対策によつて規模縮小を余儀なくされ、献幣使のご奉仕、日光東照宮よりのご参列も二年間なく、祭儀は大変淋しいものとなりました。

今後は例大祭挙行に就きましても見直していかなければならぬのではと思うところです。



ホームページ
www.iga-toushougu.com

You Tube

開設しています。是非ご覧下さい。

伊賀東照宮は三重県伊賀市にあります。前院・神社本殿式・石垣などご観てください。

自然豊かな神域に權現信仰を伝える

伊賀東照宮

TOP PAGE

宗教法人伊賀東照宮

- 由来
- ご祈願 / ご法事

行事案内

- 年中行事 / イベント案内

ご案内

- 交通案内 / 地図
- 観光 / お問い合わせ
- リンク先

伊賀東照宮からのお知らせ

- ◆ 2020/10/13 伊賀東照宮第一回会報を公開しました。
こちらから御覧下さい。
- ◆ 2010/01/25 リンク先ページ追加しました。
- ◆ 2009/12/22 三重県伊賀市の神社「伊賀東照宮」のホームページを立ち上げました。

伊賀東照宮は、1977年（昭和52年）に創建された神社です。
創建にあたって、創祀者・坂野つなへ氏が日光東照宮からご祭神井伊親王の部分神を受け、
天際坐堂大神、天都中主大神、大國主命、天押雲命とともに奉祀しております。

三重県内のもとより東海・近畿地方から多くの参拝者の方々にお越しいただいております

伊賀東照宮は、1977年（昭和52年）に創建された神社です。
創建にあたって、創祀者・坂野つなへ氏が日光東照宮からご祭神を受け、
天界坐堂大神、天都中主大神、大國主命、天押雲命とともに奉祀しております。

その後、出雲大社から大國主命の御神像を伴受、
合わせて奉祀し、
境内社として火之神、火ノ湖與土神、水之社、終
津見足神を祀りました。

御歎歌から高い声質を繰り、社殿を建立、境内を
整備し、

ホーメルページトップ画面

令和の御代の記念事業

「目標予算金額 2 千万円」

【工事概要】

- 一、本殿床張替工事
 - 一、道路沿いトイレを水洗に改築
(障害者の方に安心して御使用いただける工事)
 - 一、社務所改築工事
 - 一、直会会館一階天井張替工事
 - 一、境内、古木伐採工事等

第1号会報にお知らせより御崇敬者皆様には既に建設御淨財金を御奉納いただきました御社様、御崇敬者各位様には厚く御礼申し上げます。

しかしながら、現在工事資金不足額が困難を極めております。世情厳しい状況下で有りますが何卒皆様の一層のお力添えを賜りたく茲にお願い申し上げます。